

再び戦争はしない
被爆者はつくりたくない
日本国憲法を守ろう

事務局 長崎市油木町 28-32 園田鉄美方 電話 (FAX 兼用) 095-845-5400

日本の原発政策は「這つても黒豆」 アーサー・ビナード氏 県九条の会講演会で痛烈に批判

長崎県憲法九条の会は十月二十日、長崎市原爆資料館において、アメリカ生まれの日本語詩人アーサー・ビナード氏を招き、講演会を開催しました。参加者は約百五十人。



ビナード氏は「日本語ばかりばかり」と題して講演。詩人らしく「這つても黒豆」(注・黒いものを黒豆だ

といった人が、それが虫だとわかっていても認めず、黒豆であると言いつつ張ったことから、理屈に合わなくても、強情に自説を曲げないこと。また、そのような人。)ということわざを紹介し、原発の危険性を見ようしないで安全神話に固執することは「這つても黒豆」と述べ、プルトニウムや核兵器開発の歴史に話を進めました。

「原子力の歴史の九十九%は核兵器作りであり、原爆や水爆の原料となるプルトニウムを作ることが目的」だとして、「原子力の平和利用はペテ



ン、平和を屁とも思わない利用」と批判。

「ピカドン」という言葉こそ、核分裂がたぐさんの命を奪った原爆の本質を表しており、「原子爆弾」や「核兵器」という単語は本質を隠してしまう。広島原爆が最初に使用された核兵器ではあるが、核開発の端緒となったプルトニウム型原爆が使用された長崎が現在の原爆の始まりであると語り、「プルトニウム型原爆が落とされた長崎が、プルトニウムづくりを理解するためのレンズの役割を果たす必要がある」と長崎の役割を強調しました。

ビナード氏は「アメリカ合衆国憲法より優れた憲法が日本にあるが、これを無くそうという動きがある。すべては核開発をしたいからで、闘っていかねばならない」と、日本国憲法を守ることは核兵器廃絶とも相通ずるものだと語りました。

また、講演に先立って、県内の三つの九条の会が活動を報告。城山憲法九条の会から山口秀樹代表世話人が発言しました。

山口さんは、昨年 から今年にかけて原発問題についての三



回の学習会、講演会をおこなってきたことや、爆心地に近い九条の会として原爆遺構めぐりを系統的に取り組んでいると報告。

さらに改憲を掲げる日本の維新の会などの動きが引き金となり、憲法改悪の動きが強まる危険性があると指摘して、憲法を守る取り組みを強めようと呼びかけました。

(深町記)

「原発百万人大占拠」行動に呼応

十一月十一日午後、「原発ゼロをめざす長崎連絡会」が呼びかけて、「ナガサキ紫陽花行動」が長崎駅前高架広場でおこなわれ、百三十人が参加して「今すぐ原発ゼロ」の声をあげました。

集会で「さよなら原発ナガサキアクション」の西岡由香さん(漫画家)が、「ここに皆さんが集まったことが希望の象徴です」と参加者を激励し、福島に行ってきた報告と、高知県の自然エネルギーを生かす取り組みなどを紹介しました。諫早からは、原発ゼロの取り組みを報告し、全県に広げてほしいと呼びかけました。集会後、参加者は(以下、裏面)

